

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900079	事業の開始年月日	平成23年3月1日	
		指定年月日	平成23年3月1日	
法人名	有限会社 ぱすてる			
事業所名	どんぐり庵さんだ			
所在地	(〒243-0211) 神奈川県厚木市三田742-27			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年10月15日	評価結果 市町村受理日	平成28年2月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホームで暮らすことになってもその人らしい生活を送ることができるようにこころがけている。近所の徒歩圏内にスーパーや衣料品店、レストランがあり、日々の買物や行事の際に必ず利用者様と一緒に外出するよう心がけ、積極的に活用している。日常における料理や洗濯、掃除等に関しては職員のみで決して行なわず、利用者様個人の力に応じた内容で一緒に行かない、たとえ少しの時間でも関わりをもち、また役割を持って生活して頂けるよう努めている。また、入居者様が健康に暮らせるように、かかりつけ医や看護師に協力してもらい、日々の健康面のチェックや、何か変化があった時は即座に対応できるよう日々の情報交換や、入居者様の観察に力を入れている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年11月5日	評価機関 評価決定日	平成28年1月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇利用者の自由で自主的な暮らしの支援 ・理念「あなたのできること、わかることを探し・・・自由な気持ちを守ります」を念頭に、職員は各種のサービスや支援を行う際、利用者の立場に立ち思いの実現に向け取り組んでいる。 ・利用者は、食材の買出しや調理、洗濯物たたみなど、自分の得意なことやできることを自主的に選び、楽しみながら手伝っている。 ・玄関・フロアの錠は夜間のみ施錠で、職員の見守りにより、自由暮らしを支援している。 ◇利用者や家族が信頼できる医療・ケア体制 ・看護師である事業所の代表を中心に、きめ細かな健康管理が行われている。 ・重度化した場合、家族・医師・看護師・職員が連携し、方針を共有して支援する体制ができている。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ・家族に行事の写真を載せた毎月発行の「どんぐり通信」とともに、利用者の毎日の様子や血圧や体重など健康面について報告している。 ・できる利用者は献立の見直しや食材の購入、調理などに参画し、職員と一緒に楽しくおいしい食事が提供できるよう取り組んでいる。 ・外出や行事に力を入れており、利用者が行ってみたい場所には、可能な限り出かけて、利用者から喜ばれている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は掲示しており把握している。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念は「できること、わかることを探して～自由な気持ちを守りま す」を掲げ、職員は利用者のこれまでの生き方を尊重し、自由に過ごせるように支援してる。 ・理念を入職時研修で学び、その後は各種会議などで確認し、実践に活かしている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の加入をしており、夏祭りやお楽しみ会に参加している。また回覧板を通じ情報の共有を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の回覧から情報を得て、夏祭りや老人会のお楽しみ会などに参加し、事業所の餅つきや流しそうめん大会には住民を招いて近隣住民と交流を図っている。 ・定期的にマジックや大正琴のボランティアと交流している。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方々や、見学に来られた地域の方々にはその都度説明を行なっている。認知症の方への対応など講習をしてほしいとの声もあったが、現状は行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度定期的に会議を行ない利用者様の生活状況を伝えたり、助言をもらい日々のサービス向上に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は、自治会長、民生委員、利用者家族、地域包括支援センターの職員をメンバーとして2か月ごとに開催している。 ・施設の現状・事故状況、活動予定などを報告し、メンバーと意見交換を行っている。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営状況や入居状況など様々な相談をしている。また施設内での事故により、受診した場合は報告書を提出し助言を仰いでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターとは、運営推進会議への参加のほか、日常の課題について、いつでも相談し指導を得る態勢にある。 ・厚木市介護保険課とは、利用者の現況報告や書類提出などを通じ、指導、助言を受けている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で理解し気を付けている。	・職員は入社時研修とマニュアルを基にした事例研修で身体拘束の弊害を学び、身体拘束をしないケアを実践している。 ・玄関とユニット間のドアは施錠せず、帰宅願望の利用者にそのそぶりがあれば、職員が付き添い外出して対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が注意を払い行っていないが、今後も職員同士で話し合いを続けていく必要がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は作れていない。制度の存在自体良く知られていないと思うが、今後学ぶ機会を作る必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての契約項目に関して、時間をかけ丁寧に説明を行なうよう心掛けている。不安や疑問点をその都度確認しており、納得の上で契約の締結や解約を行なうよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話連絡の際に意見や要望を聞く機会を設けている。それに関して、申し送りや毎月のミーティングで確認をして、日々のケアに活かしている。	・家族の来訪時、家族会、電話連絡、利用者との日常会話などを通じて、意見、要望を聞きサービスに反映している。 ・意思表示が困難な利用者からは、表情やしぐさから汲み取り、その意向実現に向けて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ひと月に一度管理者会議を設け、事業所内の報告・相談の場はあるが、離職者が多い現状を踏まえると十分な機能を果たしていない。	・職員からの意見や要望は、毎月開催するフローア会議で聞くほか、管理者は職員が意見を言いやすいような雰囲気づくりを心がけ、日頃から意見や要望を聞いている。 ・行事や外出を家族と一緒にとの提案で、家族参加の機会が増えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務年数や努力に応じて役割を持つよう取り組んできたが、現状は実践できていない。勤務を正常に行うだけで精一杯の状況である。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	これまで研修を受ける機会を設けてきたが、今年度は行えていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所間（同法人）においては勉強会など設けてきたが、その他交流出来る機会は持っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人との面接の際、困っていることや不安等について尋ねている。できる限りリラックスした状態でお話ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて伺っている。その際、本人の前で話しにくい内容等は別室で話を聞いたり、後日電話にて連絡をとるなど、できる限り不安な点や要望が聞けるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接を通じて、本人にとってより良いサービスを提供できるよう、必要としている支援を見極め、当施設としてできることや、家族に協力していただきたいことに関して説明を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に介護をするのではなく、毎日の生活で知らないことを教えてもらったり、困ったときには助言をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の変化や体調など相談や伝えるようにしている。またご家族からも話があれば相談している。施設内で用意できないものなどはご家族に相談をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加をしたり、本人の要望を聞き馴染みの人や場と関係を持てるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の協力を得て、利用者の思い出や馴染みのある美容院、パン屋、和菓子店や自宅付近などを訪れている。 ・また、職員が利用者とは馴染みの公園・名所などに車で出かけ、一緒に散歩をする支援も行っている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い関係の入居者様同士は積極的に談笑や、手伝いを一緒に行ってもらっている。またそうでない方も一緒に作業を行ってもらうことで、孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の施設を訪問したり、転居先からの連絡や相談には応じている。ご家族へも協力できることがあれば相談してほしいと伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思疎通が出来る方は、話を聞いたりと尋ねることで意向の把握に努めている。また意思疎通が困難な方は、職員同士話し合いをし本人の思いを理解できるよう努めている。	・入所時に把握した思いや意向などに、毎日の関わりのなかで得られた情報を業務日誌や個人ファイルなどに追記し、会議で職員が共有してケアに反映している。 ・意思疎通の難しい利用者は表情や仕草などから意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴の記録を読んだり、ご家族や本人から話を聞くことで暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や申し送りで心身状態を把握している。またその日の様子を記録することで過ごし方や変化を知ったり振り返ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで入居者様（月数名ずつ）について話し合い、結果を元にプランを作成し次のミーティングでアセスメントを行ないプランの見直しを行っている。	・介護計画は、利用者や家族の意見を把握し、フロアー会議での検討結果、必要時には医師や看護師の意見を参考に作成している。 ・介護計画は3か月ごとに定期的な見直しを行い、介護度の変更や退院など変化がある都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や申し送りを通して入居者様の様子や、新しい取り組みなどを共有し必要に応じてミーティングで話し合い改善を図るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会などの機会にご家族とコミュニケーションを図り意見や希望を取り入れるようにしている。接触の難しいご家族に対しては電話連絡により状況を伝え意向を聞くようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りやお楽しみ会などの地域の催しには積極的に参加しているが、催しの内容によっては参加出来る入居者様が限られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院に外来受診や、訪問診療を受けている。受診前後には必ずご家族に連絡し、受診内容を報告している。ご家族から疑問や意見があれば、必要に応じ主治医に相談している。	・内科は全員が協力医をかかりつけ医とし、月1回の往診と必要に応じて随時往診を受けられる態勢になっている。 ・専門医の受診は家族に付き添いをお願いしているが、困難なときは有料で職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルはもちろんその他身体状況の変化に合わせて、看護師に相談し受診の必要性がある時にはすぐに対応している。また便秘がちの入居者様の下剤量を日々看護師に相談し、内服支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は本人に会いに行き入院中も安心できるようにしている。また出来るだけ早期に退院できるように入居者様の様子を伺ったり病院関係者と情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した入居者様に対し事業所で出来る対応をご家族に情報提供している。実際重度化した場合は本人、ご家族、医療従事者と話し合い、共通の認識を持ち支援できるよう努めたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の「重度化における対応指針」を入所時に本人、家族に説明し同意を得ている。 ・重度化した場合、家族・医師・看護師・職員が連携し、方針を共有して支援する体制ができている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	未だ不十分ではあるが、研修への参加を始め実践力の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	正職員は自治体における防火管理者の講習を終えている。避難訓練を通して知識や情報を、他の職員と共有している。今後も力を入れ体制作りをしていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回避難訓練と防災機器の習熟訓練を実施している。 ・災害時の地域の協力体制構築について、運営推進会議を通じ協力を呼びかけている。 ・飲料水・食料を3日分以上、衛生用品も備えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会などを通じ、災害時の地域の協力体制構築に引き続き取り組むことを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを保てるように個人情報や周囲に聞かれたくない話は居室でするように心がけている。排泄、入浴時はドアを開けっ放しにしないようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入職時研修や毎月のミーティングで、誇りやプライバシーを損ねない接遇について学び、職員は声の大きさなどを互いに注意し合っている ・トイレ誘導は目立たないように行い、介助中もドアは閉めている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が希望を伝えやすくなるような環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者様の希望に沿える様にしている。一緒に外出や欲しい物があれば一緒に買い物へ行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様本人で衣類を選んでもらい、出来ないところは手伝っている。その日の気温に合わせて着脱の声かけをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは部分的に一緒に行うようにしている。お願いできる事柄が年々少なくなっているため、継続的に一緒に行うことが厳しい状況である。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人作成の献立を、利用者の好みに合わせ調理している。 ・随時行事食や利用者のおすすめメニューをを採り入れ、誕生日には希望メニューや外食を楽しんでいる。 ・職員は利用者とともに食材の買い物や調理を行い、介助や会話をしながら一緒に食べている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調が違うため、その時々 の状況により水分や食事量の確保を心 がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	いつまでも口から食べてもらえるよ う口腔ケアは特に気を配り心がけて いる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレ での排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄をしてもらうよう声 かけし、トイレへ行ってもらう。タ イミングが合わず失禁してしまうこ ともある。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の状況に合わせた布パンツ、リハビリパンツ、パッドの使用や、必要に応じての二人介助でトイレでの排泄を支援している。 ・排泄チェック表や様子を見て、声掛けやトイレ誘導を行っている。 ・現在、ほぼ全利用者が夜間もおむつは使用していない。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫 や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り 組んでいる	便秘にならないようジュースやヨー グルトを提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をして いる	入浴予定は組んでいるが予定にとら われないようにし、希望がある時に 入っていただいたり声かけし入浴し てもらっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ごとに湯の入れ替えを行 い、個々の好みにあわせた湯温や脱 衣室の室温を設定している。 ・職員は、一人で入浴したい利用者 には離れて見守るほか、ゆっくり話 を聞いたり一緒に歌を歌うなど、く つろげるよう配慮している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時全て消すのではなく、見えるように豆電球を点けている。夜間はこまめに様子を確認している。疲れが見られる時は居室で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬しないように、日付や名前を本人の前で読み上げ確認し、全て飲み終わるまで見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗い物や洗濯物など出来る事をしてもらおう。また本人の気持ちを尊重し、やりたくない時は他入居者様を誘ったり職員で行っている。お菓子は食べたい物を聞き提供している（可能な時）		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩、外気浴、買い物やドライブ、地域のイベントなど可能な限り外出できるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・要望に応じて近隣への散歩や、買い物、外食に同行している。帰宅願望が見られれば散歩に誘い、自宅周辺をドライブすることもある。 ・事業所内の日用品や食材の買い物には、利用者にも声を掛け一緒に出掛けている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方はお金を所持している。他の方は預かり管理し、ご家族に用途の相談、報告をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員も手助けしながら外部の方へ手紙を出したり、電話をかける、受けるを自由に行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花壇、フロアにはソファが置いてあり、利用者様に心地よい空間を提供できるように心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・温・湿度に基準を設けているが、体感も考慮して調節している。 ・居間には心地良く過ごせるように身体状況にあわせて数種の椅子が用意されている。 ・壁には、季節に合わせた利用者の作品や行事の写真が貼られている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席は大体決まっているが、利用者様同士で別な席やソファで談笑している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の慣れ親しんだ品や、家族の写真を置いたり仏壇を置いたり、心穏やかに過ごしてもらうように配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンとクローゼットが備えられた居室に、利用者は家族の写真や趣味の楽器などで思い思いにしつらえている。イグサカーペットを敷き、布団を使用する利用者もいる。 ・職員は清掃、寝具や衣類の管理、室温調整などの支援をしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分や廊下などにはなるべく障害物を置かないようにしている。また職員と共に買い物に行き、料理や食器洗いなどを手伝ってもらっている。		

事業所名	どんぐり庵さんだ
ユニット名	ぐら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は掲示されており、入職時やミーティングなどを通してその都度確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、夏祭り、落語会等に参加させて頂いた。また、回覧板を通じ、地域の情報を共有している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方々や、見学に来られた地域の方々にはその都度説明を行なっている。認知症の方への対応など講習をしてほしいとの声もあったが、現状は行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を実施。防災、地域行事に関することや、施設内の居心地の良い環境作り等の助言を頂き、日々のサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営状況や入居状況など様々な相談をさせて頂いている。また、施設内での事故により受診をした際には報告書を提出し、助言を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、入職時に説明をしたり、休憩室にマニュアルを置きいつでも目を通せるようにしており、職員全体が理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルやミーティング等を通じて学び、職員全体が意識してケアをしている。言葉による拘束も虐待にあたるという事を定期的に確認した方が良いと思う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は機会を作れていない。制度そのものを知らない職員もいると思われるので、今後学ぶ機会を作る必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全ての契約項目に関して、時間をかけ丁寧に説明を行なうよう心掛けている。不安や疑問点をその都度確認しており、納得の上で契約の締結や解約を行なうよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話連絡の際に意見や要望を聞く機会を設けている。それに関して、申し送りや毎月のミーティングで確認をして、日々のケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ひと月に一座管理者会議を設け、事務所内の報告、相談の場はあるが、離職者が多い現状を踏まえると十分な機能を果たしていないと思われます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や努力に応じて役割を持つよう取り組んできたが、現状は実施できていない。勤務を正常に行うだけで精一杯の状況にある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	これまで研修を受ける機会を設けてきたが、今年度は行えていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所間（同法人）においては勉強会などを設けてきたが、その他交流できる機会は持っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人との面接の際、困っていることや不安等について尋ねている。できる限りリラックスした状態でお話ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて伺っている。その際、本人の前で話しにくい内容等は別室で話を聞いたり、後日電話にて連絡をとるなど、できる限り不安な点や要望が聞けるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接を通じて、本人にとってより良いサービスを提供できるよう、必要としている支援を見極め、当施設としてできることや、家族に協力していただきたいことに関して説明を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の認知力、身体機能の低下により年々一緒に行くことが難しくなってきたが、できる範囲で手伝ってもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡の際に入居者様の日々のようすを伝えるようにしている。何か困ったことがあった時はご家族に相談し、一緒に対処策を考えてもらうなどしている。なるべく行事へも参加して頂けるよう働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が馴染みの場所へ行っても、思い出せなかったり覚えていないことが多い。ご家族や知人が面会に来た際は、入居者様に声かけし居室でくつろいでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を考慮しながら、相性の良好な方同士を関わり合えるよう努めている。入居者様同士が声をかけ合ったり、一緒に洗濯たたみを行ったり、談笑をして過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせの電話や訪問の際には、快く相談に乗ったり話しを聞き要望に応じられるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや暮らし方の希望、意向はそれぞれ違うので、日頃からコミュニケーションを図り、何気ない会話から、その人の好みや希望を把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやサマリー、ご家族との会話を通して、生活リズムや生活環境、職業などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ファイルや日常記録を参考にし、日々の様子や心身状態の変化、持病や薬などの情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の現状と今後の課題について、月に一度のミーティングや申し送りや職員間で話し合い、ケアマネージャーがアセスメントし、ケアプランへ反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録で1日の様子を毎日記録し、気になることや変化について職員間で情報を共有している。それを日頃のケアや次回のケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会や季節毎の行事への外出、外食等を楽しんでもらう。地域の催しにも参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーやホームセンターなど一緒に外出している。地域の行事にも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際はご家族に連絡を取り、本人の状態を説明している。受診後の結果、今後の対応、追加薬の有無もご家族へ報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を行ない、他身体状況の変化に気付いた時は、直ぐに相談し受診の必要性がある時は即座に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提出するなど、これまでの状況がわかるようにしている。入院中や退院時には病院関係者からの情報を収集している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者様に対し、事業所で出来ることをご家族に説明、共有をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不十分である。研修への参加が必要である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。今後はもう少し力を入れたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣や排泄時は必ず居室やトイレで扉を閉め行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の話を中断したりせず、最後まで聞きその話にそって、入居者様の意思を尊重するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりの希望にそって、直ぐに実行可能なことであれば一緒に行えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の体調や気温に合わせ、衣類を選んでもらう。声かけをし自ら出来る方は身だしなみを整えてもらい、出来ない方には職員が代わりに整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、食事作り、片付けなど可能な限り入居者様と一緒にしようとしている。好みを入居者様に聞いたり、会話の中で情報を得てメニューに組み込んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に二度の体重測定（内1人は週1回）を行い、必要に応じて食事量を考慮している。水分は時間に関らず希望時には出すようにしており、水分の少ない方にはこちらから促すなどして、脱水等には気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて歯磨きをしてもらったり、義歯のある人は外して歯磨きしている。入居者様の状態に合わせて口腔ケア用ガーゼ等も使用している。夕食後は義歯洗浄剤で消毒し、清潔の保持に努めている。歯科往診時に歯科医からの助言をもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各入所者様の排泄パターンを把握し、早目にトイレ誘導したり、入居者様の状態の変化に合わせて対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多目に摂ってもらったり、トイレで時間をかけて自力排泄を促したり、腹部のマッサージをする。看護師や医師に相談し下剤の調整をしている。便秘気味の方はオリゴ糖や牛乳、ヨーグルトなどを摂ってもらうなど工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の好みを把握し、お湯の温度や室温などを調整している。声かけに対し拒否がある場合は時間をおいたり、職員を代えたりしている。それでも拒否される場合は日を改めるなど工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の寝具など汚れたら洗濯、拭き掃除をし清潔に保つよう心がけている。また夜間は空調・温度管理に気をつけ気持ち良く眠れるように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が全て管理し、服薬の都度入居者様に出している。薬の変更があった場合職員全員が内容を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、掃除、洗濯は入居者様と一緒にやっている。また外食やドライブ、散歩、買い物など外出の機会を作り気分転換を図れるように心がけている。おやつ時間を毎日作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望する方はその都度散歩へ行っている。地域のイベントなどは参加できるものは、職員と一緒に参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かり管理している。ご家族に用途の相談、報告をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしてもらったり、礼状を書いてもらったりしていたが、現在できていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にフロアや、廊下に行事の写真や入居者様が塗った塗り絵などを飾っている。トイレのドアに花を飾りわかりやすくするなど工夫をしている。音楽やTVの音量や室温にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの席の配置は決まっているが、それ以上のことはできていない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族により使い慣れた物や、植物、写真などは自由に飾っていただいている。その人らしい居室となるように心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じてトイレや浴室に手すりを設置し、安全に立位保持ができるようにしている。本人が自分でできるとも思っている危険を感じることに限っては、職員が支援をおこなっている。		

目標達成計画

事業所名 どんぐり庵さんだ

作成日 平成27年12月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	スタッフの入れ替わりがあり、家族との関係性が希薄になってきている。	家族との情報交換や連絡事項の伝達が円滑に行える。	①積極的に挨拶や自己紹介をする。 ②面会時には必ず入居者様の近況を伝える。 ③日頃の会話を通して、家族の希望などを言いやすい環境を造る。 ④家族からの情報や希望などは日誌に記載し、全スタッフが情報を共有する。 ⑤重要な意見についてはミーティングなどで話し合う。	6か月
2	52 54	共有部分や居室などの掃除はしているが、チェック体制がなく把握ができていない。	定期的に掃除ができ、清潔な環境で生活できる。	①各場所ごとに担当を割り振る。 ②チェック表を作成し、掃除状況を把握する。	1か月
3	35	災害時の地域の協力体制の構築。	地域との関わりを深め、災害時に備える。	①自治会長の協力を得て、近隣住民への協力を依頼する。 ②地域との連携策について、消防署に相談してみる。	6か月
4					
5					